

社外取締役からのメッセージ



社外取締役(就任8年)
塩路 広海

“人”基軸の経営で再びイノベーションを

弁護士としての知識や経験を最大限生かして、主にコンプライアンス面の監督をする。それが私に一番求められていることだと思いますが、「法律を順守してください」としやくし定規に言うだけでなく、リスクをチャンスに変える“攻めの企業法務”や“将来の種まき”といったことを意識しながら発言や提言を行うことで、フジシールグループの成長に貢献していきたいと考えています。

2022年度は原材料費の高騰などが収益に大きく影響しましたが、社内で議論を重ね、課題解決に向けて非常に努力もされていたという印象を持っています。施策については実現できたものもあれば、これから実現に向けて動き出すものもあり、今は過渡期だと感じています。この傾向はしばらく続くと思いますが、環境問題など大きな曲がり角にきている今こそ、世界に先駆けて開発したシュリンクラベルのように、再び画期的なもののづくりで業界にイノベーションを起こしてほしいと願っています。

そのためには、一人ひとりが情熱を持って仕事に取り組むことが大切です。やはり最後は、“人”です。「フジシールグループの従業員で本当に良かった」と感じてもらえるような職場環境づくり、言わば人を基軸にした経営に、さらに注力していただきたいと思っています。



社外取締役(就任6年)
牧 辰人

これからの10年が次の100年の礎に

フジシールグループはすでに世界のさまざまな地域で事業を展開していますが、今後の成長のためにはさらなる拡大が必須です。その手法やリスク管理の複雑性が増す中、財務や税務をはじめ、海外、とりわけアジアでのビジネスに関する知見と経験を生かすことが私の役割だと認識しています。

コロナ禍は落ち着きつつあるものの、地政学リスクなど依然、先が読めない状況が続いています。そうした中、ESGへの取り組みに対してEcoVadisやCDPなど外部の機関から高い評価を得たことは、2022年度の印象的なトピックでした。

また、一昨年、「Waku-Waku成長サイクル」という考え方が提示されましたが、これからの10年がまさに“Waku-Waku”のフェーズであり、次の100年に向けて非常に重要かつ振り返った時に必ず評価される期間になると考えています。その時機を確実に捉え、持続的な成長に導くには、「一包んで〈価値〉を一日々新たなところで〈創造〉します。」という経営理念のもと環境の変化に適応し、スピーディーに意思決定を行い、実践していくことが大切です。その体制は整いつつあり、私自身も“Waku-Waku”しながらしっかり貢献していきたいと思っています。



社外取締役(就任4年)
関 勇一

強みを生かした長期戦略で成長軌道へ

私は、執行役や従業員の方々には“会社を良くしたいという情熱”と“粘り強く前に進めていく執着心”を持っていただきたいと思っています。一方、社外取締役の役割は全体を俯瞰し公平性や客観性を持って冷静に判断することであり、この両者がぶつかり合うことで議論が活性化され、より良い経営につながっていくと考えています。また、時には私自身の会社経営の経験も生かし、フジシールグループにとって一番良い落とし所を見つけられるよう心がけています。

取締役会の実効性や運営については高く評価しています。審議案件が提示されるだけでなく、各地域や各事業部の戦略が決まる前にそれまでのバックグラウンドを丁寧に説明していただき、我々社外取締役も三者三様の意見を出して意思決定に加わるなど、ガバナンス面でも非常に良い形ができています。

この数年は足元の課題の対応に追われた感がありましたが、先に光も見えてきました。短期的な話はここでひと段落させて、今後は当社グループの強みを生かした長期戦略を固め、本来の成長軌道に戻ってほしいと思っていますし、これまでのパッケージの常識を覆すような画期的な新商品・新技術の創出にも期待しています。